

「自主防災組織の立ち上げ定着」～地域防災から人づくり～

奥出雲町 亀嵩公民館

1 亀嵩地区の概要

亀嵩地区は奥出雲町の東部にあり、安来市と隣接する山間部にある。人口は372世帯、1,193名、高齢化率44.3%と少子高齢化が進んでいる。たたら製鉄のために行われた鉄穴流しの跡地を利用した棚田では美味しい「仁多米」が生産されている。また、椎茸栽培、仁多牛の生産も行われている。

2 事業の趣旨

過疎化の進行により住民同士の繋がりが希薄になり、地域の一体感も感じにくくなっており、地域活動は公民館任せになっている状態であった。

近年の全国的な自然災害の増加に伴い、地域住民から防災について考える必要性があるとの声があがり、平成29年度に防災に対する意識調査を実施した。それらの調査結果を基に、地域住民の防災に対する意識を共有し主体的な活動につなげること、また、それらの動きを支える地域住民のつながりづくりを推し進めることの2つを目標に取り組むこととした。

3 具体的な取組内容

今回の事業を実施するにあたり、住民同士のつながり、また防災意識を高めるためには小さなことの積み重ねが大切であると考え、下記の活動を展開した。

～地域住民のつながりづくり～

○PTA会長との意見交換会の実施

幼稚園、小学校、中学校の保護者に声をかけ、子育て世代が地域について、防災についてどのような考えを持っている

か、思いを聞いたり意見交換したりする場を設定した。

○「たなばたの夕べ」の開催

地域住民がつながることを目的に、地域の各種団体の協力を得て、住民主体のたなばた祭りを開催した。準備から片付けまで参加者全員で行った。

○全員参加のじゃんけん大会

自治会の垣根を越えて、地域住民が交流することを目的に、毎年開催されている地区民運動会の1コーナーとして全員参加で実施した。

○サロン活動（かめさんサロン）

月に1回開催するサロンの中で、防災グッズの紹介、災害体験の講話、ポリ袋での炊飯を実施した。

○文化祭における講演会の開催

多くの地域住民が参加する文化祭において、人づくり、地域づくりをテーマに講演会を開催した。また、地区で実施している防災活動を紹介する展示を行った。

○地域づくり研修会

地域づくりの先進地である安来市比田の組織の方を招き、他地区の取組について学び、亀嵩地区を見直す機会とした。

～防災意識の醸成～

○防災ワークショップ

7月6日に発生した豪雨時の自分自身の動き等の振り返りを行い、その後、ハザードマップを活用し、危険箇所や避難経路等について考えた。ワーク後には、今回のワークショップや豪雨時の経験をとおして、防災について感じていることを記入し、参加者で共有を図った。



(ワークショップの様子)

○高田地区避難訓練の実施

防災ワークショップを受けて、地域住民から避難訓練をしたいとの声があがった。地域住民を中心に、企画、運営を行った。避難訓練後は、消防署員による講習、非常食の試作、試食をした。



(地域住民による防災食作り)

○先進地視察（大田市）

「実体験をした生の声を聞きたい」との住民の希望を受け、大田市の自主防災組織や行政での取り組みについて話を聞いた。

○非常食づくり

小学校とボランティアグループの交流活動にて、防災に関する学習会を開催した。非常食を作ったり、防災に関する話をしたりした。

○防災研修「災害時における住民の心構え」

消防署の職員から、広島豪雨災害の話を中心に、日常生活での防災に対する心構えについて講演してもらい、また消火訓練も行った。

4 評価と成果

これらの取り組みをとおして、地域住民が防災に対して備えが不足していることに気づくとともに、防災意識の向上につなが

った。ワークショップを実施したことにより、地域住民が主体となった地域活動が実施された。年代別や男女別などいろいろな形でのワークショップの実施希望が出るなど、地域住民の主体性が芽生えてきた。また、各種団体の垣根を越え、地域住民、地域団体の新たなつながりができた。

5 今後の課題と見通し

(1) 自主防災組織への移行

地域住民から防災組織の立ち上げを望む声が多く、人づくり、組織づくりを強化し、体制を整える。

まずは、自治会単位でのハザードマップをもとにした、危険箇所、避難経路、避難場所などのフィールドワーク、年代別のワークショップなど、小さい単位での取り組みを実施することで住民の防災意識をさらに高め、動き出しにつなげる。

また、今年度の取組は地域での活動が中心であったため、学校との連携も強化する。

防災訓練等の自主的な取組が継続されるよう後押しし、自助、近助、共助の自主防災体制づくりを進めていく。

(2) 地域での行事の拡大

いざという時に、組織や仕組みにかかわらず互いに助け合える絆やつながりをつくるため、住民同士が集う場、地域が一体となって取り組める活動を、さらに工夫して実施していく。

今年度は子育て世代のかかわりが少なかった。子育て世代がつながる場、子育て世代と地域住民がつながる場を増やし、子育て世代ならではの防災事業を実施するなどし、地域全体の防災意識の向上につなげる。

(文責：館長 高橋栄子)